

①「通説」シネス 横山 勲（集英社新書）

実に酷い話だ。地方創生のための「企業版ふるさと納税」制度を悪用したコンサル会社。財政が困窮している「限界役場」を舞台に、足元を見透かしたような「金回し」の実態。国の制度設計に甘さがあるのかもしれないが、まったくもってけしからん。調査報道であり出した河北新報は誠にあつぱれである。

②「側近が見た昭和天皇」

北野隆一（幻冬舎新書）

昭和100年。平成、令和と時代は進んだが、昭和半ば生まれの私にとって、天皇陛下と聞いて真っ先に頭に浮かぶのは昭和天皇・裕仁である。戦前の侍従長や戦後の宮内庁長官らの日記といった史料をひもといた本。開戦や戦時中の態度など、戦後の昭和天皇とはイメージがずいぶん違うと思うのは私だけだろうか。

猫の泉

X・Buegenユーザー

①「歴史のなかの貨幣」

なぜ中国の銅銭が東アジア世界に広がり定着したのか、そして、各地でどう「使用」されていたのかを、豊富な事例とともに解き明かす刺激的な傑作。中国の貨幣政策がもたらした影響、中国や日本での貨幣使用の実態、経済学理論との関係等、多数の目から鱗のポイントをもとめあげた叙述も素晴らしいです。

②「立ち読み」の歴史
小林昌樹（ハヤカワ新書）

「立ち読み」という日本特有の習慣はいつどこで生まれ、どのような歴史をたどってきたのか。これを解き明かすため、維新以後の出版・読書環境の大変遷、書店の変遷、陳列の変化など立ち読みが成立するための条件と実態を探索しています。特異なテーマから広く出版・読書・読者史を照らす快

③「福音派」加藤 聖之（中公新書）

独特な終末論的世界観を背景にした信仰を持ち、アメリカ政治に多大な影響力を発揮する福音派。その歴史と現在を政治・社

会との関係を中心に詳やかに描き出しています。運動の中心人物や歴代政権との関係をメインとしつつも、言論や文化への影響、ウォルマートとの関係など社会事情の記述も面白いです。

④「内務省」

内務省研究会編（講談社現代新書）

戦前の超巨大官庁・内務省。所管範囲の広大さから絶大な権力を持ちつつも、大きくて全体像が見えない内務省の実態を体系的に捉えた、まさに決定版。章立て構成も良く、近代日本の内政とはいかなるものであったのかつかめます。新書としては大著ですが、新書として出た意義のある一冊です。

⑤「ガチャコン」電車風情録」

十井 勉（岩波ジュニア新書）

地方ローカル鉄道・近江鉄道が存廃論を乗り越え、再建を実施するまでの白熱した道筋をたどっています。ジュニア向けとしてわかりやすくポイントを示しつつ、リアルな筆致でデータとファクトの活用や認識の丁寧な共有等、基本的なことを十分に踏

野家啓一

哲学者

①「科学的に正しい」の真

千葉 聡（SB新書）

トランプ政権による科学懐疑と大学批判は論外だが、逆に科学的な「正しさ」を説明することは簡単ではない。本書はルイセンコ学説、サイエンス・ウォーズ、社会生物学論争などを事例にとり、科学と価値を切り離すのではなく、まず自分の価値観を自覚することが重要と説く。バランスのとれた公正な科学論である。

②「ハイエク入門」

太子堂正称（ちくま新書）

自生的秩序論で知られるハイエクの経済学説といえはケインズと対比されるのが通例だが、本書はマッハ、ウィトゲンシュタイン、ポパーなど世紀末ウィーンの哲学思想の中に彼の多面的な活動を位置づけ、その意義を明らかにする。目配りのきいた元

突した評伝である。

③「カウセンリグとは何か」

東畑 開人（講談社現代新書）

東日本大震災の折、避難所に「心のケアお断り」という貼り紙があったという。人の心に入り込むのはそれだけ難しい。本書はその困難を十分自覚しながらカウセンリグの理論と実例を具体例に即しながらわかりやすく解説した好著。カウセンリグは「何もしないことに全力を注ぐ」という言葉が心に残った。

④「エミと生命の46億年史」

藤井 一至（フルーバックス）

人間の全知全能を振り絞っても作り出せないもの、それが「生命と土」だということ。しかも生命すら粘土がなければ生まれなかった。土という何の変哲もない物質をテーマに、その成り立ちや働き、果ては文明の栄枯盛衰までを描き切った壮大な土の自然史。ダーウィンが晩年ミミズの研究に励んだのもむべなるかな。

⑤「環境時代の歴史」

松本武彦（講談社現代新書）

橋爪大三郎

社会学者

①「テクノ専制と「モンヘ」の道」

李 焜志（集英社新書）

SNSやポピュリズムに押し流されて顔死の、民主主義を生き返らせよう。QVやQFといった「多元技術」の活用もさることながら、人民が社会の主役だ！という覚悟と粘り腰がカギを握る。政策の細かな違いにこだわって分裂する野党は本書をよく読み、まとまって与党になりなさい。

②「哲学生入門」

斎藤哲也編（NHK出版新書）

哲学の研究現場に飛び込んで的を射た